

“脱腸”ってなあに？



常陸大宮済生会病院 外科消化器科医員 山崎 浩宣

鼠径（そけい）ヘルニアという病気は、あまり聞き慣れないかもしれませんが、いわゆる「脱腸」のことです。多い病気で、日本では年間15万件以上手術が行われており、実は虫垂炎（盲腸）の手術より多く行われています。患者さんの8～9割は男性ですが、妊娠などがきっかけとなって鼠径ヘルニア（脱腸）になる女性もいます。

◎「鼠径（そけい）」「ヘルニア」ってどういう意味？

「鼠径（そけい）」とは太ももの付け根部分のことを言い、「ヘルニア」は体の壁の構造に異常が起き、本来中に収まっているものが脱出してくる状態を表現する言葉です。本来内臓をお腹の中に収める壁「筋膜」の力が弱まり、腸が太ももや下腹部にはみ出して「脱腸」した状態のため、表面的には太ももの付け根部分にやわらかいピンポン球大の「しこり」や「できもの」、「こぶ」ができたような形になります。飛び出した臓器は大網や小腸、大腸、卵巣であることが多く、ヘルニアが大きくなれば腸管が出たり入ったりするようになります。

◎どうして鼠径ヘルニア（脱腸）になるの？

2足歩行をする人間は、もともと他の動物に比べてお腹に力がかかりやすくなっています。それでも健康な状態であれば、お腹の筋肉によって内臓を支えることができるのですが、加齢とともに筋肉が衰えたり、喘息や妊娠など普段からお腹に負担がかかりやすい状態が続いている方は、鼠径ヘルニア（脱腸）になりやすくなってしまいます。

◎鼠径ヘルニアの症状は？

以下の症状で思い当たることはありませんか？
思い当たることがありましたら、鼠径ヘルニア（脱腸）の可能性が考えられます。

- ・太ももの付け根に腫れ・できもの・しこりがある
- ・太ももの付け根に痛みがある
- ・立ち続けていると痛みが強くなる
- ・立ち上がった時、お腹に力を込めた際につっぱる感じがする
- ・陰嚢に腫れがある。

◎緊急手術が必要になる場合も

脱出した腸が出っ張ったまま硬くなり、本来あるべきお腹の中に引っ込まなくなってしまうことがあります。この状態を「嵌頓（かんとん）」といい、緊急手術が必要となることもあります。通常は痛くてがまんできないので、患者さんは救急で受診しますが、治療が遅れると、内部で腸が締めつけられ腐ってしまうこともあり、大変危険です。

◎鼠径ヘルニア（脱腸）の治療は

鼠径ヘルニア（脱腸）の根本的な解決方法は、現在では手術以外にはなく、放っておくと日常生活での不便さや不快感は続きます。当院では従来から行われている足の付け根を切ってメッシュという布でヘルニアが出ているところ覆う手術から、腹腔鏡を用いて小さな傷での手術も行っております。

※救急受け入れの人数を
月別に表しています。
(休日・時間外を含む)

常陸大宮済生会病院救急患者受入状況

